

職員会議（４月２１日（木）） 校長より

◎「いわき湯本高校」という「新しい風」を吹かせましょう！

1 はじめよければすべてよし！スタートダッシュ、ありがとうございます！

○よく動く生徒、ともに汗を流す先生。ハードな日程は着実に、準備はしっかり、式は丁寧に。ありがとうございます！

- ・新任者着任、インタラクティブな授業に向けての研修会、教職員健康診断、PTA教育後援会会計監査、始業式、開校式、入学式、登校指導、服装・頭髪検査、生徒写真撮影、学年集会（校歌指導含む）、校内学力テスト、対面式、部活動紹介、委員会編成、部編成、サッカー部Fリーグ、各種大会、練習試合・・・ありがとうございます！

※ゴールデンウィークに負けるな！

- ・４月の適応指導・支援が、すべてリセットされてしまう傾向あり。
- ・ゴールデンウィークの後、改めて指導・支援し、確認・点検を！
- ・学習指導、進路指導、生徒指導は丁寧に、粘り強く。
- ・生徒観察はきめ細かに（SOSを見逃さない）。

2 「二兎を追う者だけが二兎を得る」（両立、バランス）と「二兎を追う者は一兎をも得ず」（リスク・マネジメント、タイムリーなサポート）

○頑張れ、高校体育大会地区大会！（プレーも、言動も、しっかり！）

- ・「一人一人の頑張りが「学校づくり」につながる（「学校づくり」は「自分づくり」というプロジェクト）
- ・「本校舎」の生徒と「遠野校舎」の生徒がともにがんばる

○「勉強に力を入れたい、部活動がんばりたい、そんな自分の得意を伸ばせます！」

- ・「勉強」と「部活動・委員会活動」の両立、「授業」も「学校行事」も一生懸命に

- 「いわき湯本高校は大学進学から就職まであらゆる生徒の進路の実現を目指します」
    - ・「学力向上」と「進路意識（目標）」は進路実現の両輪、「生徒指導なくして学習指導なし」「学習指導なくして生徒指導なし」
  - 感染症対策の徹底と教育活動の保障の両立
    - ・「感染症対策」は地道に、「学び」は止めない
  - 公開文化祭は何を・どこまで・どのように実施できるかという方向で検討・調整していきたい（生徒会・生徒指導部、学年など）
    - ・全面実施または全面中止という「二者択一」ではなく、感染症対策を踏まえた可能な範囲での実施という「第三の選択肢」をつくりたい
    - ・コロナ禍における学校行事の「いわき湯本モデル」づくり→球技大会、全校応援、全校集会など
    - ・“新しい生活様式”を踏まえた学校の対応レベル1・2・3に応じた実施可能な企画内容（校内文化祭もあり得る）や感染症対策などを検討
  - 「2つの高校」の震災の記憶・教訓を「いわき湯本高校」へ引き継ぐ
    - ・湯本高校・・・いわき明星大学（3か月間）、本校校庭仮設校舎（3年間）
    - ・遠野高校・・・「4. 1 1」「遠野和紙」
    - ・県教委「震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業」（R3年度は遠野高校で取り組んだ）
    - ・県教委「統合校魅力化発信事業」（R4年度、いわき湯本高校など）
    - ・生徒会など（遠野校舎生徒会との交流、震災伝承館訪問、講話など）
  - 「いわき湯本ならではの」の教育と「地域に愛される学校」
    - ・「体験入学」、「特色選抜」のなかみ（自分の得意が伸ばせる学校）
    - ・アカデミックコースとスペシャリストコースのなかみ
    - ・「保健・医療コース（教育プログラム）」のなかみ
    - ・地域を学びのフィールドとする「探究学習」のなかみ
- ※地域がいわき湯本高校に期待することは何か？

### 3 教師の中核の仕事は授業（3つの問い（目標・指導・評価の一体化））

○1つめの問い：授業の目標は何ですか？（育成したい資質・能力は何ですか？）

・学習指導要領が示す3つの資質・能力

「知識・技能」「思考・判断・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」

・本校で育成したい3つの資質・能力

校訓「自立」「友愛」「創造」

○2つめの問い：そのために、どのように指導しますか？

・手立て（授業展開、発問、資料、ワークシート、ICTの活用など）

○3つめの問い：授業の目標はどの程度達成できましたか？

・学習の評価、学習のための評価、学習としての評価

・観点別評価（「知識・技能」「思考・判断・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」）

・育成したい生徒像、育成したい資質・能力の評価指標（ルーブリック）

・スクールミッション（県教委）を踏まえた「スクールポリシー」

※観点別評価や一人一台端末については、生徒・保護者に丁寧に説明

### 4 高校教育のキーワード

○第7次総合教育計画、学びの変革推進プラン

○学びの変革（個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学び）

○一人一台端末の導入、ICTの活用

○感染症対策の徹底と学びの保障の両立

○ネガティブではなく、ポジティブに

○コミュニケーション教育（演劇教育、哲学対話）、震災の記憶・教訓の継承

○命の大切さ（SOSの出し方に関する教育）

○多忙化解消、不祥事根絶